

日時 令和4年3月15日(火)

13時30分～14時30分

会場 八戸ポータルミュージアム シアター1

<次 第>

- 1 開 会
- 2 会 議
 - (1) 基本計画について
- 3 その他
- 4 閉 会

●事務局

ただ今から令和3年度第6回多文化都市八戸推進懇談会を開催いたします。

本日は出席委員11名、欠席委員4名となっております。なお、出席員のうち、1名はオンラインでの出席となります。委員の過半数以上が出席されておりますので、多文化都市八戸推進懇談会規則第5条第2項の規定により、会議が成立することをご報告申し上げます。

それでは、ここからの進行は会長にお願いいたします。

●会長

いよいよ、今日でこの懇談会も最後となり、諮問を受けておりました基本計画の最終的な確認と市長への提出となりますので、よろしくをお願いいたします。それでは、議題1「基本計画について」ということで、進めてまいりたいと思います。まずは事務局の方から説明をお願いいたします。

●事務局

それでは、「基本計画について」ということで、資料1から資料3についてご説明させていただきます。

まず、資料1「基本計画の名称について」ですが、これまで計画の名称については「(仮称)八戸市文化芸術推進基本計画」ということで進めてきたところでございますが、行政の計画としては一般的な名称にはなりますが、少し堅い印象を受けますので、柔らかい名称にできないかということで、前回の懇談会終了後に委員の皆様には代案として「はちのへ文化のまちづくりプラン」という名称を提案させていただきました。これに対して委員の皆様より意見等伺ってきたところではありますが、その結果をまとめております。従来の「八戸市文化芸術推進基本計画」に賛成の方が0名、「はちのへ文化のまちづくりプラン」が8名、その他で3名の方からご意見を頂きました。

そのご意見についてですが、お一方はどちらでも良いのではないかとということでしたが、もう一方は「芸術」という言葉を入れて、「はちのへ文化芸術まちづくりプラン」はどうかということでした。もう一方は「はちのへ文化のまちづくりプラン」の場合に何のための計画なのかが正確に伝わらない恐れがあるのではないかとということ、「八戸市文化芸術推進基本計画」も併記したほうが良いので

はないかという意見でした。

委員の皆様からのご意見を踏まえ、計画の名称案として資料内にお示ししておりますが、「はちのへ文化のまちづくりプラン ～八戸市文化芸術推進基本計画～」という案で進めていきたいと考えております。

続きまして、資料 2 にまいります、「基本計画に対するご意見と市の考え方について」です。前回の懇談会でお示した素案をもとに、令和 4 年 1 月 7 日から 2 月 6 日までパブリックコメントを実施しました。その結果、2 名の方から 2 件のご意見を頂戴しております。

まず 1 つ目、「(1) 169 ページ「ギャラリー」に、株式会社八戸彩画堂を追加してほしい。」という意見と「(2) 三浦 哲郎関連、169 ページ「歴史にふれる施設」に八戸ポータルミュージアムの展示コーナーを追加してほしい。また、170 ページ「観光施設」に八戸市公会堂前（一尾の鮎の解説版）、八戸市大字三日町 13 番地（三浦哲郎生誕の碑）を追加してほしい。」というご意見について、このご意見に対する市の考え方は、「資料編 4 「文化施設・文化財一覧」では、市民の皆様が活動や鑑賞することができる、広く開かれた文化施設を掲載する整理としています。そのようなことから、(1) 株式会社八戸彩画堂は誰でも展示鑑賞などが可能な民間の文化施設あるため、追加いたします。(2) 三浦哲郎関連については、施設の一角にあるコーナーや石碑であるため、該当しないものとして、扱うこととなります。」としております。

次に、「記述にある「文化芸術基本法」の変更でも、その他の関連分野との連携が必要性とされ、八戸市の観光戦略の中心に据えていたフィールドミュージアム八戸構想との連携を検討されてはいかがでしょうか。フィールドミュージアム八戸は、平成 19 年より八戸全体を屋根のない博物館に見立て、文化、産業、観光資源など地域の宝を「街」「渚」「田園」「祭」「歴史文化」「食彩」「産業」「物産」の 8 つのゾーン・スポットにより、観光、情報発信、関係人口の増加へと良き影響が期待された取り組みでした。現在の存続状況ははっきりせず、策定中の第 7 次総合計画の計画案からはフィールドミュージアム構想の記載は見受けられません。しかし、フィールドミュージアム構想を再認識し、芸術・文化で連動出来るものを「フィールドミュージアム八戸（仮称）八戸アート&カルチャー」として、地域の芸術、文化を加え、一緒に磨くことで、観て、聴いて、体験して、感じることで、地域再生、観光の波及効果と共に、芸術文化振興策としても期待できるものと思います。市民にもわかりやすい、芸術文化の柱を提案していただきたいと思っております。」というご意見について、市の考え方は「「フィールドミュージアム八戸構想」は、頂いたご意見のとおり、八戸全体を屋根のない博物館と見立て、観光資源を組み合わせることで、わかりやすく効果的な観光 PR を展開するため、平成 18 年に打ち出した構想です。市の総合計画における同構想の記載については、第 5 次のみで、第 6 次及び第 7 次計画とも記載はありませんが、同構想の趣旨は市の各種施策に現在も活かされております。一例として、現在市が配布している観光パンフレットが同構想に基づいて作成されているほか、八戸ポータルミュージアム「はっち」は、同構想のセンター機能を有する施設として、館内展示やガイドを通して、各フィールドへ誘う玄関口としての役割を担っております。当基本計画では、文化の視点から様々な地域資源を取り上げておりますが、観光との連携による地域の文化資源の活用は、計画の目指すところであり、観光客はもとより市民にもわかりやすい発信や、気軽に体験等ができる機会づくりが必要だと考えます。このようなことから、ご意見を参考に、「施策 4 のこす・いかす～伝統の継承と活用」の 1 基本的考え方の文中に、「市民や観光客へのわかりやすい発信や体験等の機会づくり」に取り組む旨の文言を加筆し、具体的な取組の参考にさせていただきます。」としております。

資料2については、すでに市のホームページにおいて公開しております。また、パブコメの意見を踏まえ、資料3のように修正いたしました。1枚目が修正後、2枚目が修正前となり、追記した箇所は太字で表記しておりますが、読み上げますと、「これら過去から伝わる伝統的な文化芸術は、アイデンティティの源泉にもなる言わば「市民の宝」であり、これを大切に受け継ぎながら、未来に向けた新たな価値を追求し、市民や観光客へのわかりやすい発信や体験の機会をつくり、活用していくことを通して、次代に継承していきます。」というように修正をしたいと考えております。

以上が、計画についてということで、資料1から3までご説明させていただきました。また、参考資料として、以前にも概要版としてお配りしておりましたが、計画名称の変更に伴ってこちらも修正を加えておりますので、こちらは後ほどご覧いただければと思います。

●会長

ありがとうございました。資料1から3に基づいて事務局のほうから説明をいただきました。ただいまの説明あるいは計画の名称等について、ご意見あるいはご質問等いただきたいと思っております。いかがでしょうか。

最初に資料1になりますが、基本計画の名称です。漢字ばかりの名称から、八戸という地名を知っていただくという意味でもひらがなにし、また、「文化のまちづくり」というような表現にして、「はちのへ文化のまちづくりプラン」となっています。2015年の時は「八戸市文化のまちづくりプランづくりビジョン」という名称で、それにもやや近づいたということになりますが、いかがでしょうか。これにつきましては皆様のご意見も事前にいただいております。「～八戸市文化芸術推進基本計画～」というのは入れたほうがよいと言ったのは私ですが、これがないと何のプランだかよく分からないので、こういうのを入れたほうがいいなということで、あとで資料的な意味合いも含めて入れていただきました。今後はこの名称が独り歩きし、またこの計画に則って、所謂アクションプランも出来上がっていくということになるかと思っております。

●委員

異議なし

●会長

それでは、「はちのへ文化のまちづくりプラン ～八戸市文化芸術推進基本計画～」という名称で進めていきたいと思っております。

次に、資料2のパブリックコメントに対しての市の考え方についてですが、いかがでしょうか。1つ目の意見は、「ギャラリー」に追加するというので、他の施設についても説明があったような形で掲載する・しないについて整理しているということです。

それから2つ目の意見は、個人的に重要なご指摘かと思って聞いていました。このフィールドミュージアム構想について詳しくご存知の方だという印象を持ちましたが、このご意見を踏まえて、資料3のとおり、基本計画の「施策4 のこす・いかす～伝統の継承と活用～」の中で基本的な考え方の下の段落に追記しております。このご意見をくれた方は、直接的に「フィールドミュージアム八戸構

想」という名称をどこかで使ってくれという意図もあるのかないのか、よく分からないのですが、この文章では一切そういうのは触れていませんので、ただ観光としてということになるのですが、これでいいのかというのが、ちょっと判断が付きにくいところだと思います。これは皆様いかがでしょうか。

私は、はっちのプロポーザルから関わっており、はっちの設計業者を決めたその大きな意図は、フィールドミュージアム構想のポータル館にしたいという考え方をプロポーザルでされたことでした。その考え方に、私は大変共鳴しました。最終的にその設計業者に決まったわけで、そういう意味ではこのフィールドミュージアム構想というのは、私からするとはっちと密接な関係がありますので、なんらかの形でやっぱりそれは実現させていくような、あるいは1つの柱としていくようなことが必要だと思います。2005年に松山市では「坂の上の雲フィールドミュージアム構想」を打ち出し、その取組を国交省の調査報告としてまとめられています。ただし、これは「都市再生」を主軸に置き、もう一度街を作り直すという意味合いでやっており、街を捉え直すということで、アートや何かをシンボルとしてやっているのですが、それで「坂の上の雲フィールドミュージアム構想」という形を出しています。国がそうやって宣伝をしているのだから、本来なら八戸もそこまで乗っかっていったほうがいいのではないかと思います。いずれにしても、そういうご指摘がパブリックコメントの中にありました。皆様、いかがでしょうか。

●●委員

松山市は司馬遼太郎の「坂の上の雲」とリンクした形で、すごくやりやすかったと思うが、そういう形での八戸はちょっと厳しいかなと思います。私たちはもちろん観光についても考えていますが、とにかく今は八戸市の文化のことについてずっと話し合ってきたわけで、それがこういうふうな形で肉付けされて、形になっていくことが結果として観光に結びついていくだろうと思うため、わざわざフィールドの言葉を使わなくてもよいのかと、結果としてそうなるように私たちも頑張らなければダメだということだと思います。

あとは彩画堂さんを入れるのはよいと思います。この間もプラザホテルさんで展示場を作りましたが、そういうのを1つずつ入れていくと大変なことになります。確かお金儲けというか商業的なことですが、あそこの展示スペースは非常に、常に365日使われて活発に色々とやっているため、あそこは入れてよいと思います。

●会長

●●委員がおっしゃったような形で、この表記でということですので皆様よろしいでしょうか。

はい、それではこのような形で、また、資料3の意見反映後の太字になっている部分が追加した部分ということになりました。このように進めていきたいと思います。

その他、ございますか。なければ今日の議題は基本計画のこの資料1から3のみということになりますので、一応課長からの説明のとおりに進めさせていただきたいと思います。残り時間がまだ若干ありますせっかく3年ぐらいこのメンバーでやってきましたので、委員の皆様の方から何かこれに

関わる、関わらないものも含めてご意見あるいは最近の動向も踏まえたものでも結構ですので、情報提供も含めて何かございましたら発言をしていただきたいと思います。いかがでしょうか。

●●委員

時間を掛けて、いろんな方々のご意見がこのような形に今まとまろうとしているところで、ようやく八戸市の文化、芸術の方向性というのが意識として同じ方向に向く準備ができたのかなという感じがしております。さっきの「フィールドミュージアム構想」の言葉ですが、私も言葉の響きとそれを聞いたときのイメージの広がり具合というのが凄くよかったので、この計画に入るかどうかというのはどうかわからないですが、その言葉自体がどこかに残っていてほしいと思いました。資料の中にもカッコしてわざわざ書いてあるというところで、多分この文言がどこかに残って欲しいというふうにも感じたところがあります。そこは私も共感するところがあるので、現段階ではどこにどういう風にとするのは難しいので、また違う、今、基本施設になっているはっちの中で改めてどこかに使っていただきたいキャッチフレーズだなと思いました。

●●委員

感想になるのですが、県外出身の私がこの懇談会に参加して、先ほど3年ぐらい経つというお話がありました。あっという間の3年間だったなという思いがあります。途中でコロナのこともありまして、参加できない期間がちょっと空いた時期もありましたが、ほぼ市民の目線と変わらない感じで参加させていただいて、初めから今の段階で考えてみると、私自身八戸に来たばかりの方と接する機会が多く、八戸ってどんなところがいいのとか、どんなことが今、盛り上がっているのっていうお話になることがあるのですが、そういったところで、前まではちょっとあんまり言えなかったのですが、これからはここがいいよとか、いろんな施設を紹介できるなっていうところで、本当に参加してよかったな、いい経験になったなというふうに思っております。ありがとうございました。

●●委員

3年間ありがとうございました。私もこういう形で、こういう経験をするのはあんまりないので、大変いろいろと勉強になりました。先ほどの「フィールドミュージアム構想」のようにやはり1回作って少しの間は注目されても、その後忘れ去られるような感じにはこの計画自体もならないようにしていきたいといけないなということは私自身も、これから気をつけていきたいなと思っております。今回は本当にありがとうございました。

●●委員

参加させていただいて、自分事として捉えると見えてくるものが大きく違うというのを実感させていただいた機会になりました。先ほどもありましたが、これからスタートという形で、何か力になればたらなと思ってこれからも頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願います。ありがとうございました。

●●委員

私は最後の1年間だけしか参加しておらず、何というか美味しいとこ取りのような気がしながら、いろいろ発言させていただいて、それを一部反映させていただいて、非常にありがたかったなと思います。

さっきの「フィールドミュージアム構想」の話で、●●委員の意見と同じですが、やはり基本計画の中で、これからアクションプランでどのような魅力的な個別事業を展開していくかがカギになるのかなと思いますので、遠い場所から見守っていきたいと思っております。個人的には「施策2 つくる・いどむ」のところ、ここは非常に大きな可能性があると思いますので、私も陰ながら力を尽くしたいと思います。どうもありがとうございました。

●●委員

私も3年はいなかったと思うのですが、市役所の会議ってこういう感じなんだって、ちょっと衝撃を受けたのが初めてのときでした。それで色々勉強させていただいたりしましたが、その中で私ももっとできたことがあるのではないかと、もっと言うべきことあったのではないかとというふうに反省もしたりしています。ここに来られている方たちがそれぞれ、自分の街のこととして本当に考えていて、一生懸命やっていると、そういうのに私も気付くことがあったり、刺激を受けたりするという体験をさせていただきました。なんとなくですが、こういう方たちがいる八戸は大丈夫なのではないかと楽観的に思ったりもしています。大変お世話になりました。ありがとうございました。

●●委員

「はちのへ文化まちづくりプラン」もでき、昨年には是川石器時代遺跡も世界遺産に指定されました。これから、「のこす・いかす」ということを心がけて再確認したというところですか。これからは施策2にあるように、「つくる・いどむ」ということで、心がけていきたいと思っておりました。

●●委員

立派な計画ができて大変喜ばしいと思っております。こちらの会議に参加させていただいて、私として実りがあったと思うのは、委員の方々の、皆さんのご意見やお考えを直接伺うことがとても勉強になったなと、自分の世界が広がったなというふうに思っております。感謝申し上げます。

今、立派な計画が出来上がりましたので、これが実際にどう活かされるのかというのがこれからの大きな課題になると思います。私は主に教育の現場にいますので、若い人たちを巻き込みながらなんとかアクションを起こしていければなというふうに思っています。今後ともどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

●●委員

先程ちらっと言いましたから、簡単に。個人的なことですが、5月27日と28日に公演する「ユタと不思議な仲間たち」のお芝居がようやくできました。「ユタと不思議な仲間たち」の15年後の青年になった彼らの悩み、苦しみ思いを台本にしてみました。5回書き直されました。東京の演出家から

も、ああでもないこうでもないと色々来まして、でもこれもできたらこれで終わりということではなくて、当然途中で直す、もっとよくしていく、この肉付けをしていくことがやっぱり大事なことになるのかなと思います。計画は八戸市全体のことですので、これで安心しないで、まだまだよくしようという気持ちでいていきたいと思います。どうもありがとうございました。

●●委員

3年間どうもありがとうございました。私自身のここ3年なり4年ぐらいの活動の中で大きな変化は、当初は割と現代アーティストとか若手のアーティストと一緒に何かをやるという仕事で、比重とすると多かったのですが、最近はずいぶん昨日、三陸国際芸術祭という郷土芸能をテーマにした芸術祭をはっちの2階のシアター2でやらせていただきまして、また来週の月曜日は鮫の生活館で、同じく郷土芸能をオンラインで国内外のアーティストが重地えんぶり組のえんぶりを習うという企画があったりと、自分から意図的に何かそんなに動いたわけではないのですが、なぜか伝統的なものだったり民俗芸能とかそういう地域の昔からあるものだったり、あとは伝統工芸とかそういったジャンルの仕事も今やっていたり、地域に昔からあるものや人の暮らしみたいなことに触れる機会がとても多くなりました。

この計画の中にも、「のこす・いかす」というところが非常に大きいと思うのですが、また「つくる・いどむ」とか新しい挑戦をしながら、地域にあるものをどう見直していくのかという分岐点的なところに今いるのかなというふうに思いますので、新しい人たちとどんどん色々なことを作りながらも、この地域にあるもの、自分もこれからまだ全然知らないのが沢山あると思いますので一緒に発見していきながら、この計画を自分の周りの友人とかさまざまな活動をしている人たちにも知らせていって、市民に活用されていくように育てていければいいなというふうに思います。どうもありがとうございました。

●●委員

多文化都市推進懇談会という、その当時はピンポイント的に練習場をどうするか、そういうような感じでやっておりました。私の頭の中にあるのは、ある特定の方々だけのものをいかに市民のものにするかという、そこを頭の中にずっと多文化という形で巻き込んでいくというようなことをやっておりました。やはりその中で大きなのが、やはりはっちという観光交流施設ができたことでした。オリンピック関係で資材が高くなって設計をもう1回見直したり、屋上にレジデンスを作るのが駄目になったり、地下があって大舞台があってという構想ができなくなったりとか、実ははっちもそういう意味では設計を見直したり、あるいは展示物についても、私たちが当初思っていたものとは違いました。

また、八戸に36年前に来て、あの駅舎を見たときにウェスタンの街だなと思ったのが、今日降りてみたらもう様変わりして、すっかり洗練されたように感じました。私は、八戸は漁師の町で奥行きのない町だというふうに来た時に思っていたのですが、今やはり女性の視点で物事を考えたりあるいは文化を考えたり、芸術を考えたりということで、少しずつ奥行きが八戸という街に出てきたなという印象を持っています。特に八戸を12年前に離れて、他から八戸を見ると、色々ものを受け入れる

土壌があるのではないかと思います。いろんなことを発言できるのが八戸のエネルギーというか、そのような思いがしています。

今回は根気よく、気長に最後まで皆さんにお付き合いいただきありがとうございます。先程●●委員もおっしゃったように、これができてハイ終わりではなく、やはり社会は有機体ですから、それに合わせてこの基本計画が変わっていくだろうというふうに思っております。しかし、何よりもやはり市がこれを周知徹底し、皆さんがそれを我がことのようにしていろんな活動をしていただく、それを市が後押しをしていく、そういう好循環ができればいいなというふうに思っております。

この懇談会が終わったら市長に提出することになりますが、出席される方は一言今、おっしゃったようなことも含めて市長に対してメッセージを送っていただきたいというふうに思います。私からはお礼を申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

それではこれですべて終わったということで、最後に事務局のほうに「その他」ということでご説明をお願いします。

●事務局

先程、会長からもお話しがありましたが、この後についてご説明させていただきます。懇談会終了後の15時から市長への「はちのへ文化のまちづくりプラン」案の手交式を予定しております。内海会長、柗谷副会長のほか、参加できる委員の皆様、どうぞよろしく願いいたします。

●会長

ありがとうございました。それでは時間となりましたので、事務局のほうにお返ししたいと思います。最後に前田部長よりお願いしたいと思います。

●事務局

最後に、事務局を代表してお礼を述べさせていただきます。まず、3年という長きにわたりまして、この計画づくりの内容の審議に多方面・他分野で活躍されているそれぞれの立場から、たくさんのご意見を頂き、厚く御礼を申し上げます。文化と言っても、非常に対象とする範囲も広く、最初はどこからどこまでを含めた計画にするのか、戸惑いながらのスタートとなりました。最初は非常に総花的だという批判的なご意見もあったかと思いますが、文化政策として対象が広がっているというのが、今の文化政策の流れだと思いますので、そういったところを踏まえながら、できるだけ幅広く計画に盛り込むことが出来ればよいと思い、計画づくりに取り組んできました。事務局のほうも資料や文献など読んで勉強しながら、委員の皆様からのご意見も踏まえながら、良い形にできたかと思えます。

ポイントは「ビジョン」から「プラン」へということで、前身である「文化のまちづくりビジョン」から「文化のまちづくりプラン」ということで、計画性があがるような形のものにできたと思っております。これからは実行に移していくということになりますが、実行に移すレベルで、方向性はこの計画で示しておりますが、詳細なプランニングまではされておらず、予算あるいはマンパワー、それから行政だけでできることだけではなく、市民の皆様、今日お集りの皆様、文化関係の皆様とも一緒に連携をしながら、なんとか文化によるまちづくりを進めていければと思っております。これからなお一層、今日お集りの皆様には様々な場面でご助言をいただき、また連携しながら、新しいことに取

り組んでいければと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

また、2005年に「多文化都市八戸推進会議」という名称でスタートしたこの懇談会ですが、設立当初から会長にはかかわっていただき、長く会長を務めてここまで引っ張ってきていただきました。この場をお借りしまして感謝申し上げます。ありがとうございました。今回に限らず、長く委員を務めていただいた委員の皆様もいらっしゃいます。本当にありがとうございました。

来年度からは組織を改組しまして、この計画をもとに新たな取組を進めていくための、また助言やアドバイスをいただくための組織体を立ち上げていきたいと考えております。直接は関係ありませんが、はっちにはアドバイザリーボードという運営に対して色々ご助言等いただく会議体がありましたが、こちらにつきましては今年度で解散して、これから新しく立ち上げる組織に組み込んでいくということで来年度以降進めていく予定でございます。また、新しい会議の場だけではなく、まさに計画の中に取り入れたプラットフォームという場をつくって、今日お集りの皆様やそれ以外の市内で文化活動をされている方々がより集まれる場で、色々意見を交わしながら、時には学びの機会もつくりながら、全体として、文化のまちづくりが進んでいくような、そんな取組を進めていきたいと思っておりますので、そういった場面でもお集りの皆様にはお世話になると思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

計画の話に戻りますが、対象を広げて計画を策定したつもりではございますが、計画としてまとめていくためには、どこかで何かを削ってこのような形にまとまったところもありますので、委員の皆様の意見が十分に反映されていない部分もあろうかと思っております。しかし、計画が全てということでもありませんので、そういう面も含めて引き続きよろしく願いしたいということをお願いして、お礼のあいさつに代えさせていただきます。本当にありがとうございました。

●事務局

それでは、これもちまして本日の会議を終了いたします。委員の皆様、これまでの長きにわたるご協力、誠にありがとうございました。